

(8-22)使用実態を反映した農薬監視への試み

○相澤 貴子(横浜市水道局) 鎌田 素之(関東学院大学)
池貝 隆宏(神奈川県環境科学センター) 松井 佳彦(北海道大学大学院)

1. はじめに

平成 15 年の水道に関する「水質基準の省令」改正により、農薬類は水質管理設定項目に位置づけられ、各水道事業者が農薬使用の地域特性、トレンド、時期等の情報を精査し、測定農薬を選定してきた。我々は水道事業者が監視農薬を選定するためのスクリーニング的な手法とし、監視農薬プライオリティリストを示すとともに、農薬出荷量、毒性、物性情報などを提供し、これらの情報に事業者の独自の情報も加え、農薬実態調査を行ってきた。表 1 に H18 年度に 12 水道事業者の協力を得て実施した農薬実態調査の概要を示す。

表1 H18 年度全国農薬実態調査の概要

原水	測定数		検出数	検出率	最大濃度	検出農薬名	最大個別農薬濃度値	検出農薬名
	測定数	検出数						
第一群	102	68	8.5	4.10	プロモプテド	0.5200	モリネート	
第二群	7	2	2.9	0.02	イミダクロプリド	0.0017	シハロホップテチル	
第三群	9	5	5.4	0.06	ピリミノバックメテル	0.0100	MCPA	
酸化物	16	4	3.3	0.53	MPPスルホキシド	0.5300	MPPスルホキシド	
その他	2	2	6.6	0.37	オキサジクロメホン	0.0000	該当なし	
すべて	136	81	8.0	4.10	プロモプテド	0.5300	MPPスルホキシド	
浄水	測定数		検出数	検出率	最大濃度	検出農薬名	最大個別農薬濃度値	検出農薬名
	測定数	検出数						
第一群	102	38	2.0	2.00	グリホサート	0.0375	プロモプテド	
第二群	7	1	0.3	0.01	イミダクロプリド	0.0001	イミダクロプリド	
第三群	9	2	0.6	0.02	MCPA	0.0040	MCPA	
酸化物	16	4	1.0	0.12	プロモプテドデプロモ	0.0200	MEPオキソン	
その他	2	2	4.9	0.05	XMG	0.0000	該当なし	
すべて	136	47	1.9	2.00	グリホサート	0.0375	プロモプテド	

結果から測定農薬と検出実態は必ずしも一致しておらず、この要因の一つとして農薬使用量に関する情報不足が挙げられる。これまで監視農薬プライオリティリストでは農薬使用量に関しては農薬要覧¹⁾から得た都道府県単位の農薬出荷量情報を用いていた。しかし、正確な予測を行う上で農薬使用量に関する情報は使用実態をできる限り反映していることが望ましい。そこで、本研究では詳細な農薬使用情報を流域単位で得ることを目的に3次メッシュ単位での情報の取得と汎用性の高い表計算ソフト Excel (Microsoft 社製) 用いた集計、解析を行った。また、得られた情報を効率的に活用するため簡易 GIS による表示についても検討を行った。

2. 農薬使用量算出に関する検討

流域単位での土地利用情報に関する検討:これまで都道府県単位での情報を流域単位で検討するため国土数値情報として提供されている²⁾土地利用情報と流域・非集水域情報を使用した。流域・非集水域情報は3次メッシュ単位ではないことから得られる情報が実際の河川名を反映しておらず不完全なものである。そこで今回は PRTR データ活用環境リスク評価支援ツール³⁾の情報も活用することで、3次メッシュ単位で流域単位での土地利用情報をデジタルデータ化した。土地利用情報は32種の作物区分に対応している。得られた3次メッシュ単位の情報を Excel のセルとリンクさせ、情報に応じた書式を設定することで、簡易 GIS として視覚的な表示を試みた。

流域単位での土地利用情報に関する検討:農薬原体使用量を算出は以下の手順で行っ

た。対象となる都道府県を選定し、これらの地域における作物区分別作付面積を算出した。各農薬製剤は 32 種の作物区分に対応するように散布回数、散布液量、希釈倍率を調査し、これらの情報に基づき単位面積あたりの農薬製剤ごとの作物区分別散布量を作成した。さらに、農薬要覧¹⁾から得た都道府県・農薬製剤別出荷量情報と農薬製剤別農薬原体含有率情報を用いることで対象地域における作物区分別農薬原体使用情報を算出した。この情報と 2.1 で得た 3 次メッシュ単位で流域ごとの土地利用情報を併せることで流域ごとの農薬原体使用量を算出した。

3. 結果とまとめ

流域単位の把握に関して神奈川県、山梨県、静岡県を対象として検討を行った。得られた情報は簡易 GIS により流域区分ごとに表した(水域ブロック図)。一例を図 1 に示す。また、これらの情報に 2006 農薬年度における農薬出荷量情報を反映し、流域単位で年間使用量を集計した結果の一例を表 2 に示す。

本研究で用いた情報は農薬に関する情報を除いてすべてインターネット上で一般向けに公開されているデータを活用した。これらの汎用性の高い情報を、Excel を用いた簡易 GIS により、これまでの GIS における操作の煩雑さを解消でき、農薬やそれに付随する土地利用情報を簡便に表現することが可能となった。また、流域単位での年間農薬使用量について検討を行ったところ、流域により上位にランクされた農薬原体の種類に大きな違いは認められなかったが、今回の対象とした流域で上位ランクされた農薬は測定法上の関係から十分にモニタリングできていない農薬が含まれており、農薬実態との検討を行う必要がある。

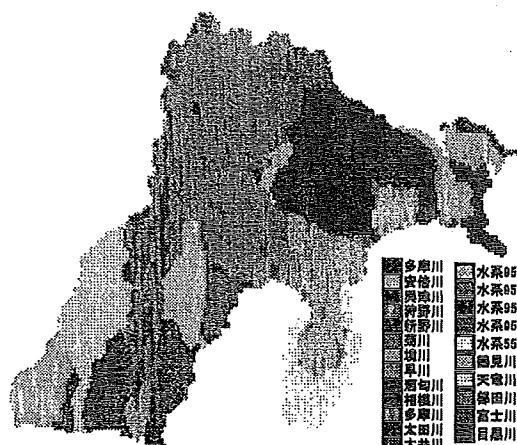


図 1 神奈川・山梨・静岡における水域ブロック図

これらの汎用性の高い情報を、Excel を用いた簡易 GIS により、これまでの GIS における操作の煩雑さを解消でき、農薬やそれに付随する土地利用情報を簡便に表現することが可能となった。また、流域単位での年間農薬使用量について検討を行ったところ、流域により上位にランクされた農薬原体の種類に大きな違いは認められなかったが、今回の対象とした流域で上位ランクされた農薬は測定法上の関係から十分にモニタリングできていない農薬が含まれており、農薬実態との検討を行う必要がある。

表 2 酒匂川, 相模川, 鶴見川における年間農薬使用量の算出結果

酒匂川		相模川		鶴見川	
農薬原体名	使用量(t/年)	農薬原体名	使用量(t/年)	農薬原体名	使用量(t/年)
D-D	17.7	D-D	93.2	D-D	28.8
ダゾメット	3.1	ダゾメット	20.3	ダゾメット	8.3
マンゼブ	1.1	マンゼブ	6.3	マンゼブ	2.2
マンゼブ	1.1	アセフェート	4.2	アセフェート	1.7
ダイアジノン	1.0	DMTP	4.1	DMTP	1.5
DMTP	0.7	MEP	3.9	MEP	1.3
MEP	0.7	マンネブ	3.3	マンネブ	0.9
カルタップ	0.5	TPN	2.4	TPN	0.8
ジラム	0.5	ダイアジノン	2.0	DDVP	0.8
TPN	0.5	DDVP	1.9	ジラム	0.7

本研究は厚生労働科学研究費補助金「飲料水の水質リスク管理に関する統合的研究」(主任研究者:松井佳彦)における農薬分科会の成果によるものである。協力を頂いた水道事業体に謝意を表す。

参考文献

- 1) 農林水産省消費・安全局他(2006) 農薬要覧 2006, 日本植物防疫協会, pp.209-397
- 2) 国土数値情報ダウンロードサービス <http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>
- 3) 環境省, (社)環境情報科学センター(2007) PRTR データ活用環境リスク評価支援ツール

(8-47) 塩素反応試料における挙動解析と生理作用への影響評価の重要性

○田原麻衣子(国立医薬品食品衛生研究所) 田中 美穂(東京医薬専門学校)
久保田領志(国立医薬品食品衛生研究所) 中澤 裕之(星薬科大学)
徳永 裕司(国立医薬品食品衛生研究所) 西村 哲治(国立医薬品食品衛生研究所)

1. はじめに

チオノ型有機リン系農薬は、環境中や生体内でオキソン体へと変化し、その有害影響は、原体に比べて強くなる傾向があることが知られている。水質管理目標設定項目 102 農薬にあげられているピリダフェンチオンおよび検討対象農薬第 3 候補群にあげられているクロルピリホスメチルはチオノ型有機リン系農薬であるが、浄水工程の塩素処理による挙動や反応生成物の有害影響が十分に把握されていない。そこで、ピリダフェンチオンおよびクロルピリホスメチルについて、塩素曝露における挙動と、急性毒性の発現機序として知られているコリンエステラーゼ (ChE) 阻害活性により、反応生成物の生理作用への影響を検討した。

2. 実験

分析方法については、ガスクロマトグラフ/質量分析計 (GC/MS) および液体クロマトグラフ/質量分析計 (LC/MS) での条件の構築を行った。塩素処理は次亜塩素酸ナトリウムを用い、初期遊離塩素濃度 1 ppm で行った。固相抽出により濃縮後、GC/MS を用いて反応生成物を同定および定量した。ChE 活性は、7 mIU の ChE と試料を反応させた後、ヨウ化 5-メチル-2-テノイルチオコリン基質法を用い、405 nm における吸光度を測定した。本手法を用いて、塩素反応生成混合物の ChE 阻害活性を検討した。

3. 結果および考察

オキソン体標準品の ChE 活性の測定結果により、チオノ型有機リン系農薬であるクロルピリホス、ダイアジノン、イソキサチオンの浄水工程で生成するオキソン体は、ChE 阻害活性が強いことがわかった。ピリダフェンチオンおよびクロルピリホスメチルはこれら 3 種と同骨格 (図 1) を有することより、オキソン体は ChE 阻害が強いと示唆されたため、対象物質とした。

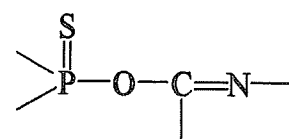


図1 共通構造

GC/MS および LC/MS を用いてそれぞれの分析法を構築した結果、クロルピリホスメチルにおいて、LC/MS ではピークが検出できなかったが、ピリダフェンチオンおよびクロルピリホスメチルの GC/MS に関しては、良好な分析結果が得られた (表 1)。

表1 GC/MSおよびLC/MSによる分析の検討結果

	ピリダフェンチオン		クロルピリホスメチル
	GC/MS	LC/MS	GC/MS
モニターイオン (m/z)	340	341 (Pos.)	286
検出限界値 ($\mu\text{g/L}$)	20	0.1	5
検量線範囲 ($\mu\text{g/L}$)	20-500	0.1-10	5-500
相関係数 (R^2)	0.9989	0.9983	0.9999

塩素処理による経時変化について検討を行ったところ、ピリダフェンチオンおよびクロルピリホスメチルともに原体は速やかに減少し、反応時間に伴って主生成物のピーク面積の増加が認められた。この主生成物はマススペクトルによりオキソン体と推定された。また、塩素反応の反応生成混合物のChE活性を測定した結果、原体と比較して、塩素反応時間に伴ってChE阻害が増強された。

検討後にピリダフェンチオンのオキソン体が市販されたため、標準品を用いて検討した結果、ChE阻害活性は非常に強かった(図2)。このChE 20%阻害濃度を他のオキソン体と比較した結果、強い阻害活性を示したクロルピリホス、ダイアジノン、イソキサチオンの3種と同等の値を示し、オキソン体の中でも強いChE阻害を示す農薬の一つであることが明らかとなった。同一の骨格がChE阻害に大きく影響することが懸念され、クロルピリホスメチルについてもChE阻害の強いオキソン体となることが予測された。標準品が入手できないクロルピリホスメチルについては、高濃度溶液における塩素反応により分取を行った。その結果、反応生成物粗抽出試料において強いChE阻害がみられた。

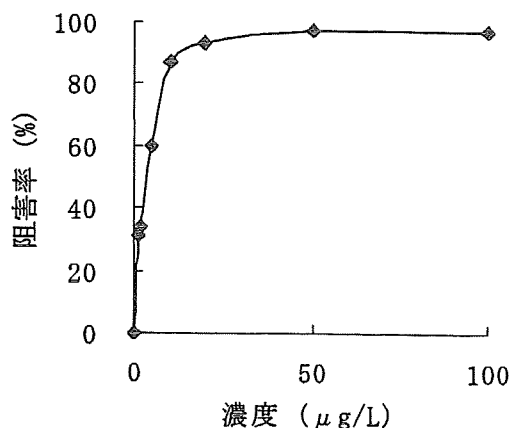


図2 ピリダフェンチオンオキシンのChE阻害活性

4. まとめ

ピリダフェンチオンおよびクロルピリホスメチルについては、良好な分析条件を確立することができた。また、浄水工程における塩素処理によりオキソン体へ変化し、クロルピリホス、ダイアジノン、イソキサチオンと同様に、ChE阻害活性による有害影響が強くなることが明確となった。

塩素処理による挙動や反応生成物の有害影響が十分に把握されていない物質に関しては、分析法を確立し、生理作用に影響を及ぼすことが危惧されるものから優先性を上げて検討を行うことが重要であると示唆された。



Two-generation reproductive toxicity study of the flame retardant hexabromocyclododecane in rats

Makoto Ema^{a,*}, Sakiko Fujii^b, Mutsuko Hirata-Koizumi^a, Mariko Matsumoto^a

^a Division of Risk Assessment, Biological Safety Research Center, National Institute of Health Sciences, Tokyo 158-8501, Japan

^b Safety Research Institute for Chemical Compounds Co., Ltd., Sapporo 004-0839, Japan

Received 29 August 2007; received in revised form 14 December 2007; accepted 19 December 2007

Available online 28 December 2007

Abstract

Male and female rats were fed a diet containing flame retardant hexabromocyclododecane (HBCD) at 0, 150, 1500 or 15,000 ppm throughout the study beginning at the onset of a 10-week pre-mating period and continuing through the mating, gestation and lactation periods for two generations. The mean daily intakes of HBCD during the whole period of administration were 10.2, 101 and 1008 mg/kg bw in F0 males, 14.0, 141 and 1363 mg/kg bw in F0 females, 11.4, 115 and 1142 mg/kg bw in F1 males, and 14.3, 138 and 1363 mg/kg bw in F1 females for 150, 1500 and 15,000 ppm, respectively. The incidence of rats with decreased thyroid follicles size was increased in F0 and F1 males and females at 1500 ppm and higher. Serum TSH levels were increased in F0 and F1 females at 1500 ppm and higher, and serum T4 levels were decreased in F0 males and females at 15,000 ppm. The number of the primordial follicles in the ovary of F1 females was reduced at 1500 ppm and higher. There were increases in the absolute and relative weights of the liver in male adults and male and female weanlings at 1500 ppm and higher, and in female adults at 15,000 ppm, and of the thyroid in male and female adults at 15,000 ppm. Decreased body weight and body weight gain associated with reduced food consumption were found in F1 males and females at 15,000 ppm. Decreases were found in the viability index of F2 pups and the body weight of male F1 and F2 pups and female F2 pups at 15,000 ppm. In F2 pups, there were low incidences of the completion of eye opening in males at 15,000 ppm and in females at 1500 ppm and higher, and of completed mid-air righting in females at 15,000 ppm. The data indicate that the NOAEL of HBCD in this study was 150 ppm (10.2 mg/kg bw/day). The estimated human intake of HBCD is well below the NOAEL in the present study.

© 2007 Elsevier Inc. All rights reserved.

Keywords: Hexabromocyclododecane; Brominated flame retardant; Two-generation reproductive toxicity; Developmental toxicity; Rat

1. Introduction

Although about 80 different brominated organic flame retardants are registered, tetrabromobisphenol A, the polybrominated diphenyl ethers and hexabromocyclododecane (HBCD) account for most of the total volume [1]. HBCD is a nonaromatic, brominated cyclic alkane used as an additive flame retardant. Total market demand for HBCD in 2001 was estimated as 2800 tons in America, 9500 tons in Europe, 3900 tons in Asia and 500 tons in the rest of the world [2]. The commercial product is a mixture of three stereoisomers, alpha, beta and gamma, which are typically present at approximately 6, 8 and 80%, respectively [3]. Its primary application is in extruded (XPS) and expanded

(EPS) polystyrene foam that is used as thermal insulation in the building industry. HBCD is the only suitable flame retardant for these applications. A secondary, although important, application of HBCD is as a flame retardant for upholstery textiles [3,4]. The partition coefficient (Log Kow) value of 5.6 suggests that this chemical is suspected to have high bioaccumulation potential [4]. HBCD has been used for about 20 years, and is detected in practically all environmental media [5]. HBCD was identified in sediment from several places along the River Viskan in Sweden [6] and the River Cinca in Spain [7]. HBCD was detected in fishes, pike (*Esox lucius*) [6] and barbel (*Barbus graellsii*) [7], indicating that it is bioavailable and bioaccumulates. The bioconcentration factor of this compound is reported to be 18,100 in fathead minnow (*Pimephales promelas*) [8]. HBCD was also detected from common whelk (*Buccinum undatum*), sea star (*Asterias rubens*), hermit crab (*Pagurus bernhardus*), gadoid fish species whiting (*Merlangius merlangus*), cod (*Gadus morhua*),

* Corresponding author. Tel.: +81 3 3700 9878; fax: +81 3 3700 1408.
E-mail address: ema@nihs.go.jp (M. Ema).

harbor seal (*Phoca vitulina*) and harbor porpoise (*Phocoena phocoena*) from the North Sea [9]. These findings show evidence of HBCD bioaccumulation at the trophic level and biomagnification in the ascending aquatic food chain [9]. As a result of widespread use and the physical and chemical properties, HBCD is now considered to be a ubiquitous contaminant in the environment and humans [5,10]. It could be hypothesized that food intake is the largest single source of human exposure to HBCD [11].

HBCD was detected at ranging from 0.3 to 20 $\mu\text{g/g}$ lipid in 49 samples of the 85 human breast milk samples collected from Norway between 1993 and 2001 [12]. The concentration of HBCD in the Stockholm human milk showed a fluctuating increase over time, and from 1980 the concentration increased from 0.13 pmol/g lipid to 0.60 pmol/g lipid in 2004 [13]. The HBCD concentration of human milks collected in 2002 to 2003 from North America was ranging from 0.3 to 10 $\mu\text{g/g}$ lipid [14]. The presence of such a chemical compound in biological systems has aroused great concern about its toxicological potential. The biological effects produced by chemicals should be studied in laboratory animals to investigate their possible influences on human health, and the results of animal tests of chemical toxicity are relevant to humans [15]. The toxic effects of HBCD are briefly summarized by NRC [4], American Chemical Council [3], de Wit [16], Darnerud [11], Birnbaum and Staskal [17]. However, information on the effects of HBCD is insufficient to assess the overall toxicity of this compound. Following oral administration to male rats, HBCD was rapidly absorbed from the gastrointestinal tract, distributed primarily to the body fat, and eliminated rapidly, primarily in the feces [4]. In a 28-day repeated dose toxicity study, no toxic effects were noted in male and female SD rats at any dose of HBCD given by gavage at up to 1000 mg/kg bw/day [18]. In a 90-day repeated dose toxicity study in SD rats given HBCD at 0, 100, 300, or 1000 mg/kg bw/day by gavage, increased weights of the liver and prostate, and γ -glutamyltransferase, and decreased weight of the thyroid/parathyroid were found [19]. The author of this study concluded that these changes were probably of limited, if any, toxicological significance, because they were reversible, and not associated with specific target organ damage or diminished function. The dose-related effects of HBCD on the thyroid hormone axis were observed in a recent 28-day repeated dose study (OECD407) enhanced for endocrine and immune parameters using Wistar rats dosed by gavage at 0–200 mg/kg bw/day [20]. After a single dose of HBCD by gavage at 0.9 or 13.5 mg/kg bw by gavage on postnatal day (PND) 10, spontaneous activity and learning and memory in the water maze were altered when tested at the age of 3 months in NMRI mice [21]. As for the developmental toxicity of HBCD, two studies are available. There was no maternal or developmental toxicity in SD rats given HBCD by gavage on days 6–19 of pregnancy at any doses up to 1000 mg/kg bw/day [22]. No maternal or developmental toxicity was noted in Wistar rats given HBCD in diet at up to 1% (equivalent to 600 mg/kg bw/day) on days 0–20 of pregnancy [23]. No reproductive difficulties in dams or postnatal development in offspring were found even at the highest dose.

Although the testing for reproductive toxicity in an animal model is an important part of the overall toxicology, no information is available for the reproductive toxicity of HBCD at the present time; therefore, a two-generation reproductive toxicity study was conducted.

2. Materials and methods

This study was performed in 2005–2006 at the Safety Research Institute for Chemical Compounds Co., Ltd. (Sapporo, Japan) in compliance with the OECD guideline 416 Two-generation Reproduction Toxicity Study [24]. This study was conducted in accordance with the principles for Good Laboratory Practice [25], “Law for the Humane Treatment and Management of Animals” [Law No. 105, October 1, 1973, revised December 22, 1999, Revised Law No. 221; revised June 22, 2005, Revised Law No. 68], “Standards Relating to the Care, Management and Refinement of Laboratory Animals” [Notification No. 88 of the Ministry of the Environment, Japan, April 28, 2006] and “Fundamental Guidelines for Proper Conduct of Animal Experiment and Related Activities in the Testing Facility under the Jurisdiction of the Ministry of Health, Labour and Welfare” [Notification No. 0601005 of the Health Sciences Division, Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan, June 1, 2006].

2.1. Chemical and dosing

Hexabromocyclododecane (HBCD; 1,2,5,6,9,10-hexabromocyclododecane; CAS No. 3194-55-6) was obtained from Wildlife International, Ltd. (Easton, MD). The test substance was a composite of HBCD commercial products from Albemarle Corporation (Baton Rouge, LA), Great Lakes Chemical Corporation (West Lafayette, IN) and Ameribrom Inc. (New York, NY), and Wildlife International, Ltd. prepared the composite. The preparation of HBCD was a mixture of three enantiomers. HBCD- α , HBCD- β and HBCD- γ , and their respective proportions in the used batch were 8.5, 7.9 and 83.7%. The HBCD (test substance number # 7086) used in this study was 99.7% pure, and was kept in a sealed container under cool (2–7°C) and dark conditions. The purity and stability of the chemical were verified by analysis using liquid chromatography before and after the study.

Rats were given dietary HBCD at a concentration of 0 (control), 150, 1500 or 15,000 ppm. The dosage levels were determined based on the results of a previous 90-day oral repeated dose toxicity study [19] in male and female CrI:CD(SD)IGS BR rats given HBCD at 0, 100, 300 or 1000 mg/kg bw/day for 90 days. The author concluded that all test article-related changes, even at 1000 mg/kg bw/day, were reversible, not associated with specific target organ damage or diminished function (data not shown).

Dosed diet preparations were formulated by mixing HBCD into an appropriate amount of a powdered basal diet (CRF-1, Oriental Yeast Co., Ltd., Tokyo, Japan) for each dietary concentration. The control rats were fed a basal diet only. Analysis showed that the HBCD was homogeneous in the diet and stable for at least 21 days at room temperature, and was administered at the desired feed concentrations throughout the study.

2.2. Animals and housing conditions

CrI:CD(SD) rats were used throughout this study. Rats of this strain were chosen because they are the most commonly used in reproductive and developmental toxicity studies, and historical control data are available. Male and female rats at 4 weeks of age were purchased from Tsukuba Breeding Center, Charles River Laboratories Japan, Inc. (Yokohama, Japan). The males and females were acclimated to the laboratory for 7 days prior to the start of the experiment. Male and female rats found to be in good health were selected for use. One hundred and ninety-two rats were randomly assigned 24/sex/group as F0 animals, and all animals were assigned a unique number and ear tattooed prior to the start of the experiment. Animals were housed individually in suspended aluminum/stainless steel cages, except during the acclimation, mating and nursing periods. From day 17 of pregnancy to the day of weaning, individual dams and litters were reared using wood chips as bedding (White Flake, Charles River Laboratories Japan, Inc.).

Animals were reared on a basal diet or diet containing HBCD and filtered tap water *ad libitum* and maintained in an air-conditioned room at $22 \pm 3^\circ\text{C}$, with humidity of $50 \pm 20\%$, a 12-h light/dark (20:00–08:00) cycle and ventilation at 10–15 times/h.

2.3. Experimental design

Twenty-four F0 rats (5-week-old males and females)/sex/group were fed a diet containing HBCD at 0, 150, 1500 or 15,000 ppm for 10 weeks prior to the mating period. Administration of HBCD was continued throughout the mating, gestation and lactation periods. Twenty-four male and 24 female F1 weanlings (1 male and 1 female in each litter) in each group were selected as F1 parents on PNDs 21–25 to equalize the body weights among groups. The day on which F1 parental animals were selected was designated as 0 week of dosing for the F1 generation. The administration of HBCD in the diet was not suspended during PNDs 21–25. F1 selected rats were administered HBCD in the diet of their respective formulations in the same manner as described for F0 rats. Administration of HBCD in the diet was continued throughout the mating, gestation and lactation periods. On PND 26, unselected F1 weanlings and all F2 weanlings were necropsied.

2.4. Mating procedures

Each female was mated with a single male of the same dosage group until copulation occurred or the mating period had elapsed. The mating periods for F0 and F1 animals were 3 weeks. During the mating period, daily vaginal smears were examined for the presence of sperm. The presence of sperm in the vaginal smear and/or a vaginal plug was considered as evidence of successful mating. The day of successful mating was designated as day 0 of pregnancy. F0 females that did not mate during the 3-week mating period were cohabited with another male from the same group who had been proven to copulate. For F1 matings, cohabitation of siblings was avoided.

2.5. Parental data

All adult rats were observed twice a day for clinical signs of toxicity, and body weights and food consumption were recorded weekly. For females exhibiting evidence of successful mating, body weight and food consumption of dams were recorded on days 0, 7, 14 and 20 of pregnancy and days 0, 4, 7, 14 and 21 of lactation. Daily vaginal lavage samples of each F0 and F1 female were evaluated for estrous cyclicity throughout the 2-week pre-cohabitation period and during cohabitation until evidence of copulation was detected. Females having repeated 4–6 day estrous cycles were judged to have normal estrous cycles. After weaning their pups, parental female rats were necropsied at the proestrous stage of the estrous cycle. For each female, the number of uterine implantation sites was recorded.

2.6. Litter data

Once insemination was confirmed, female rats were checked at least three times daily on days 21–25 of pregnancy to determine the time of delivery. The females were allowed to deliver spontaneously and nurse their pups until PND 21 (the day of weaning). The day on which parturition was completed by 13:00 was designated as PND 0. Total litter size and the numbers of live and dead pups were recorded, and live pups were counted, sexed, examined grossly, and individually weighed on PNDs 0, 4, 7, 14 and 21. On PND 4, litters were randomly adjusted to eight pups comprising of four males and four females. No adjustment was made for litters of fewer than eight pups. Pups were assigned a unique number and limb tattooed on PND 4.

2.7. Developmental landmarks

All F1 and F2 pups were observed for pinna unfolding on PND 3, incisor eruption on PND 11, and eye opening on PND 14. One male and one female F1 and F2 pup selected from each dam were evaluated for the surface righting reflex on PND 5, negative geotaxis reflex on PND 8, and mid-air righting reflex

on PND 18 [26]. All F1 offspring selected as F1 parents were observed daily for male preputial separation beginning on PND 35 or female vaginal opening beginning on PND 25. Body weight of the respective F1 rats was recorded on the day of preputial separation or vaginal opening. The anogenital distance (AGD) was measured using calipers on PND 4 in all F1 and F2 pups, and the normalized value of AGD to body weight, AGD per cube root of body weight ratio, was calculated [27].

2.8. Behavioral tests

Spontaneous locomotor activity was measured with a multi-channel activity monitoring system (Supermex; Muromachi Kikai Co., Ltd., Tokyo, Japan) in 10 male and 10 female F1 rats selected from each group at 4 weeks of age. Rats were placed individually in transparent polycarbonate cages (27.6 W \times 44.5 D \times 20.4 H cm, CL-0108-1, CLEA Japan Inc., Tokyo, Japan), which were placed under an infrared sensor that detects thermal radiation from animals. Spontaneous motor activity was determined for 10 min intervals and for a total of 60 min.

A test in a water-filled multiple T-maze was conducted in 10 male and 10 female F1 rats selected from each group at 6 weeks of age. The apparatus was similar to that described by Biel [28]. The water temperature of the maze was kept $21\text{--}22^\circ\text{C}$. As a preliminary swimming ability test, each rat was allowed to swim three times in a straight channel on the day before the maze trial, and then tested in the maze with three trials per day for the next three consecutive days. The elapsed time between entry into the water at the starting point and touching the goal ramp and number of errors were recorded. To prevent the exhaustion of the rats, no animal was allowed to remain in the water for more than 3 min in any trial.

2.9. Termination/necropsy adults

Parental rats were necropsied: males after the parturition of paired females, females after weaning of their pups. The proestrous stage of the estrous cycle was characterized by examination of the vaginal smears of female rats on the day of necropsy. A complete necropsy was performed on all rats found dead and those killed at the scheduled sacrifice. Live rats were euthanized by exsanguination under ether anesthesia. The external surfaces of the rats were examined. The abdomen and thoracic cavities were opened, and a gross internal examination was performed. Weights of the brain, pituitary, thyroid, thymus, liver, kidney, spleen, adrenal, testis, epididymis, seminal vesicle (with coagulating glands and their fluids), ventral prostate, uterus and ovary were recorded. Weights of the thyroid and seminal vesicle were measured after fixation. Major organs were stored in 10% neutral-buffered formalin. The testis and epididymis were fixed with Bouin's solution and preserved in 70% ethanol.

Histopathological evaluation of F0 and F1 adults was performed on the tissues specified below after fixation, paraffin embedding, and sectioning and staining with hematoxylin and eosin: the pituitary, liver, thymus, kidney, spleen, adrenal, bone marrow, mesenteric lymph node, Peyer's patches, testis, epididymis, seminal vesicle, coagulating gland, ventral prostate, ovary, uterus, vagina and mammary gland of all males and females in the control and highest dose (15,000 ppm) groups and of females with abnormal estrous cycles, males and females without evidence of copulation or insemination and females with abnormal delivery or totally dead pups in all groups. Any organs or tissues of F0 and F1 adults showing gross alterations were evaluated histopathologically. The thyroid in all rats in all groups was examined histopathologically. In ten F1 females of each group, the number of primordial follicles was counted [29]. The right ovary was fixed in 10% neutral-buffered formalin and then dehydrated and embedded in paraffin in a longitudinal orientation by routine procedures. Sections were cut serially at $5\ \mu\text{m}$ and every 20th section was serially mounted on a slide and stained with hematoxylin and eosin. About 40 sections per ovary were used to determine the primordial follicles.

2.10. Termination/necropsy pups

Following the adjustment of litter size on PND 4, culled pups were euthanized by inhalation of carbon dioxide and subjected to a gross external and internal necropsy. No tissues from these pups were collected.

The weanlings not selected to become parents were euthanized and necropsied as described for the adults. Organ weights of one male and one female F1 and F2 weanling selected from each dam were measured as described above for adults. The weights of the pituitary, thyroid and seminal vesicle were not determined. All pups found dead before weaning were also necropsied.

In all male and female F1 and F2 weanlings whose organs were collected, histopathological evaluations of the liver, in the control and 15,000 ppm groups, and thyroid, in all groups, were performed after fixation, paraffin embedding, and sectioning and staining with hematoxylin and eosin.

2.11. Hematological and blood biochemical parameters

On the day of the scheduled sacrifice, blood samples were collected from the abdominal aorta of adult rats under ether anesthesia.

Hematological examinations were performed for 10 males and 10 females of F0 and F1 rats randomly selected from each group. Blood samples were analyzed for the following hematological parameters, using 2K-EDTA as an anticoagulant: white blood cell (WBC) count and differential leukocyte count.

Blood biochemical evaluations were performed in 10 males and 10 females of F0 and F1 rats randomly selected from each group. Serum samples obtained from centrifuged whole blood were analyzed for biochemistry parameters such as total protein, albumin and globulin.

2.12. Serum hormone levels

On the day of the scheduled sacrifice, blood samples were collected from the abdominal aorta of adult rats. Eight males and eight proestrous females of F0 and F1 generations from each group were selected randomly for blood collection. Hormone levels were determined by Panapharm Laboratories Co., Ltd. (Uto, Japan). Serum levels of testosterone, 5 α -dihydrotestosterone (DHT), luteinizing hormone (LH) and follicle stimulating hormone (FSH), thyroxine (T4), triiodothyronine (T3) and thyroid stimulating hormone (TSH) in males, and estradiol, progesterone, LH, FSH, T3, T4 and TSH in females were measured with a radioimmunoassay kit. Double antibody kits were used for measurement of testosterone, estradiol, progesterone, T3 and T4 concentration (Diagnostic Products Corp., Los Angeles, CA) and DHT concentration (Diagnostic Systems Laboratories Inc., Webster TX). Serum concentrations of LH, FSH and TSH were measured using (rat LH)[¹²⁵I], (rat FSH)[¹²⁵I] and (rat TSH)[¹²⁵I] assay systems (Amersham Biosciences Ltd., Little Chalfont, Buckinghamshire, UK), respectively.

2.13. Sperm parameters

Sperm parameters were determined for all F0 and F1 male adults on the day of the scheduled sacrifice. The right testis was used to count testicular homogenization-resistant spermatid heads. The right cauda epididymis was weighed and used for sperm analysis. Sperm motility was analyzed using a computer-assisted cell motion analyzer (TOX IVOS, Hamilton Thorne Biosciences, Beverly, MA). The percentage of motile sperm and progressively motile sperm, and the swimming speed and pattern were determined. After recording sperm motion, the cauda epididymal fluid was diluted and the sperm were enumerated using a hemacytometer under a light microscope. Sperm count per gram of epididymal tissue was obtained by dividing the total count by the gram weight of the cauda epididymis. Sperm were stained with eosin and mounted on a slide glass. Two hundred sperm in each sample were examined under a light microscope, and the percentage of morphologically abnormal sperm was calculated.

2.14. Statistical analysis

Statistical analysis was performed according to the methods of Gad [30]. Data on offspring before weaning were statistically analyzed using the litter as the experimental unit.

Body weight, body weight gain, food consumption, length of estrous cycle, pre-coital interval, gestation length, numbers of implantations and pups delivered, delivery index, sperm parameters, hematological and blood biochemical parameters, hormone levels, organ weight, organ/body weight ratio (relative

organ weight), number of primordial follicles, reflex response time, age and body weight at sexual maturation, parameters of behavioral tests, AGD, AGD/cube root of body weight ratio, and viability of pups were analyzed for statistical significance using the following method. Bartlett's test of homogeneity of variance was used to determine if the groups had equivalent variances. If the variances were equivalent, the groups were compared by one-way analysis of variance (ANOVA). If significant differences were found, Dunnett's multiple comparison test was performed. If the groups did not have equivalent variances, the Kruskal–Wallis test was used to assess the overall effects. Whenever significant differences were noted, pairwise comparisons were made by the Mann–Whitney U test.

The incidence of pups with changes in clinical and gross internal observations, and completion rate of developmental landmarks and reflexes were analyzed by the Wilcoxon rank sum test.

The incidence of parent animals with changes in clinical, gross internal and histopathological findings, the incidence of weanlings with changes in histopathological findings, the incidence of females with normal estrous cycles, the copulation index, fertility index, gestation index, neonatal sex ratio and completion rate of the reflex response test were analyzed by Fisher's exact test.

The 0.05 level of probability was significant. The probability was designated as the cut-off for statistical significance.

3. Results

3.1. Clinical observations, body weight and food consumption during the pre-mating, mating, gestation and lactation periods (F0 and F1)

One F0 male at 15,000 ppm was euthanized at 13 weeks of dosing because of a moribund condition resulting from accidental injury in the home cage. One F1 male at 1500 ppm was dead from accidental injury in the home cage. One F0 male at 15,000 ppm and one F1 male at 1500 ppm died without any apparent clinical signs of toxicity at 5 and 7 weeks of dosing, respectively. In F0 females at 15,000 ppm, one was euthanized during the pre-mating period because of a moribund condition, and one died on day 22 of pregnancy due to dystocia. No significant difference was seen between control and HBCD-treated groups in the incidence of clinical signs of toxicity in either male or female F0 and F1 rats during the pre-mating, mating, gestation, or lactation period (data not shown).

Fig. 1 shows the body weights of F0 males and females during dosing. In F0 males, the mean body weight and/or body weight gain were significantly higher than those of controls almost throughout the dosing period at 1500 ppm and in the first 5 weeks of dosing at 15,000 ppm. In F0 females, the mean body weight gain was significantly increased on days 0–4 of lactation at 150 ppm and during weeks 0–3 of dosing at 15,000 ppm compared to controls, and the mean body weight was significantly increased on week 2 of dosing at 15,000 ppm. The body weight gain was significantly decreased on days 0–14 of pregnancy at 15,000 ppm compared to controls.

Fig. 2 presents the body weights of F1 males and females during dosing. Significant decreases compared to controls were observed in the body weight during weeks 3–6 of dosing and body weight gain during the first 6 weeks of dosing in F1 males at 15,000 ppm. Compared with control group, a significantly lowered mean body weight was observed during weeks 3 and 6–10 of dosing, the whole period of gestation and days 0–14

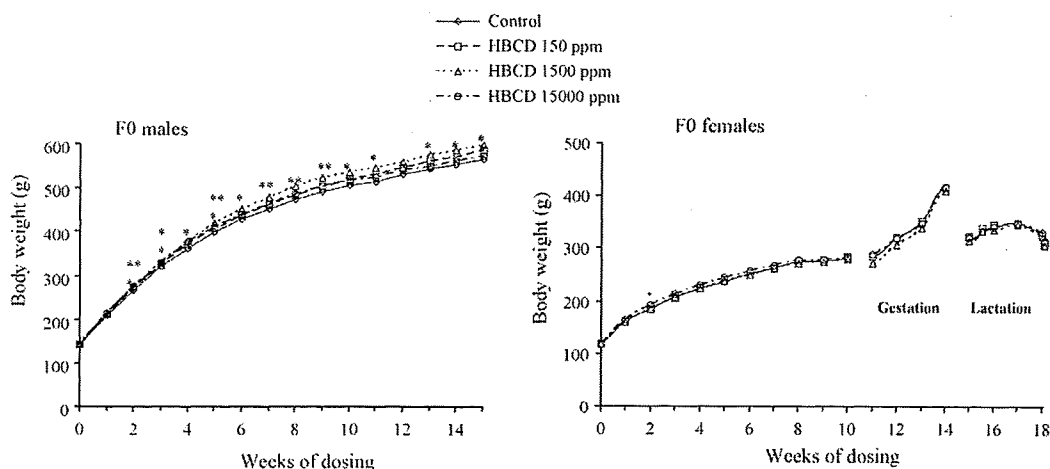


Fig. 1. Body weights of F0 male and female rats. (*) Significantly different from the control, $P < 0.05$. (**) Significantly different from the control, $P < 0.01$.

of lactation, and a significantly reduced mean body weight gain was observed during weeks 0–10 of dosing at 15,000 ppm in F1 females.

Food consumption was generally paralleled to the body weights/body weight gains during most of the study (data not shown).

The mean daily intakes of HBCD were 12.5, 125 and 1238 mg/kg bw during the pre-mating period, 9.6, 96 and 941 mg/kg bw during the gestation period, and 23.4, 240 and 2200 mg/kg bw during the lactation period in F0 females for 150, 1500 and 15,000 ppm, respectively. The mean daily intakes of HBCD were 14.0, 138 and 1365 mg/kg bw during the pre-mating period, 9.7, 100 and 995 mg/kg bw during the gestation period, and 19.6, 179 and 1724 mg/kg bw during the lactation period in F1 females for 150, 1500 and 15,000 ppm, respectively. The mean daily intakes of HBCD during the whole period were 10.2, 101 and 1008 mg/kg bw in F0 males, 14.0, 141 and 1363 mg/kg bw in F0 females,

11.4, 115 and 1142 mg/kg bw in F1 males, and 14.3, 138 and 1363 mg/kg bw in F1 females for 150, 1500 and 15,000 ppm, respectively.

3.2. Reproductive effects (F0 parents/F1 offspring and F1 parents/F2 offspring)

Table 1

presents the reproductive and developmental parameters for F0 parent/F1 offspring. HBCD produced no significant deviations in estrous cycles, although a few control and HBCD-treated rats had extended estrus or diestrus. Copulation was not observed in two males and two females at 1500 ppm and two males and one female at 15,000 ppm. Two females each at 150 and 1500 ppm did not become pregnant and three females at 15,000 ppm neither. One pregnant female each at 150 and 15,000 ppm did not deliver live pups. There were significantly longer gestation length and lower sex ratio of live pups at 1500 ppm compared

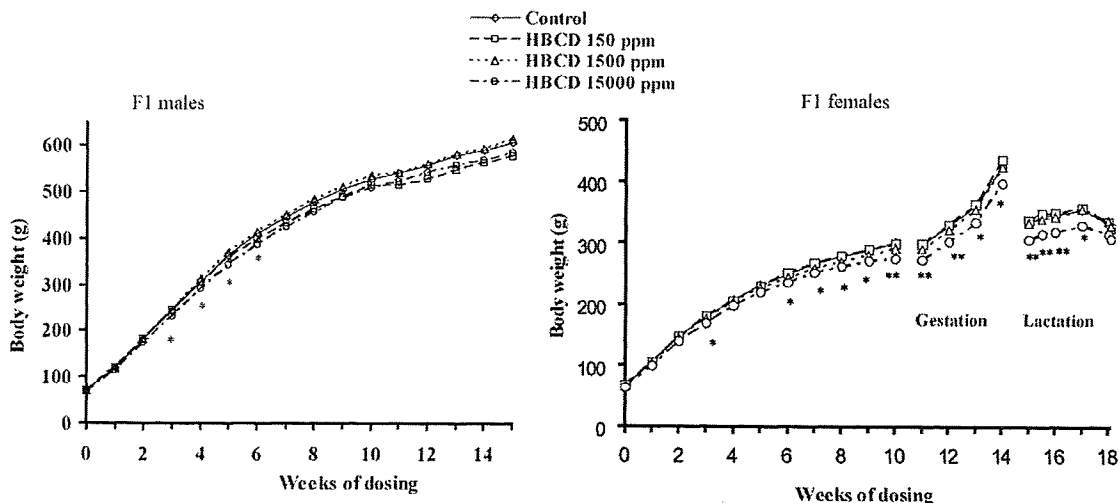


Fig. 2. Body weights of F1 male and female rats. (*) Significantly different from the control, $P < 0.05$. (**) Significantly different from the control, $P < 0.01$.

Table 1
Reproductive and developmental findings in F0 parents/F1 offspring and F1 parents/F2 offspring

HBDC (ppm)	0 (control)	150	1500	15,000
F0 parents/F1 offspring				
No. of rats (male/female)	24/24	24/24	24/24	23/23
Females with normal estrous cycles (%) ^a	91.7	95.8	87.5	87.0
Copulation index (male/female) (%) ^b	100/100	100/100	91.7/91.7	91.3/95.7
Fertility index (male/female) (%) ^c	100/100	91.7/91.7	90.9/90.9	85.7/86.4
No. of pregnant females	24	22	20	19
Pre-coital interval (days) ^d	3.4 ± 3.9	3.1 ± 3.3	2.7 ± 1.4	3.5 ± 4.3
No. of implantations ^d	14.2 ± 2.1	13.7 ± 3.3	14.5 ± 1.4	14.5 ± 2.7
Gestation index (%) ^e	100	95.5	100	94.7
Delivery index (%) ^f	92.0	89.3	90.7	93.6
Gestation length (days) ^d	22.1 ± 0.3	22.3 ± 0.5	22.6 ± 0.5**	22.2 ± 0.4
No. of pups delivered ^d	13.0 ± 2.3	13.3 ± 1.7	13.3 ± 2.6	13.5 ± 2.8
No. of litters	24	21	20	18
Sex ratio of F1 pups ^g	0.524	0.471	0.426*	0.572
No. of litters totally lost	0	0	0	1
Viability index during lactation (%)^{h,i,j}				
Day 0	99.6	97.5	98.8	99.2
Day 4	95.6	98.7	98.7	95.8
Day 21	93.2	99.4	98.1	93.8
Male pup weight during lactation (g)^d				
Day 0	6.8 ± 0.5	6.9 ± 0.6	7.2 ± 0.7	6.8 ± 0.6
Day 4	10.2 ± 1.7	10.7 ± 1.8	10.8 ± 1.6	9.5 ± 1.8
Day 7	16.4 ± 3.1	17.5 ± 2.4	16.9 ± 2.2	15.6 ± 2.0 (17) ^k
Day 14	36.1 ± 4.8 (23) ^k	36.3 ± 3.6	36.1 ± 3.9	33.5 ± 2.6 (17) ^k
Day 21	61.1 ± 7.1 (23) ^k	62.3 ± 6.5	61.9 ± 6.5	55.4 ± 4.0 (17) ^{k,*}
Female pup weight during lactation (g)^d				
Day 0	6.3 ± 0.5 (23) ^k	6.6 ± 0.7	6.8 ± 0.6*	6.5 ± 0.7
Day 4	9.6 ± 1.4 (23) ^k	10.3 ± 1.8	10.4 ± 1.5	9.2 ± 1.6
Day 7	15.4 ± 2.8 (23) ^k	17.0 ± 2.5	16.9 ± 2.3	15.1 ± 1.6 (17) ^k
Day 14	33.5 ± 5.3 (23) ^k	35.5 ± 3.6	35.7 ± 3.6	32.6 ± 3.0 (17) ^k
Day 21	56.5 ± 8.0 (23) ^k	59.9 ± 6.4	60.5 ± 5.9	53.2 ± 4.7 (17) ^k
F1 parents/F2 offspring				
No. of rats (male/female)	24/24	24/24	23/24	24/24
Females with normal estrous cycles (%) ^a	95.8	91.7	91.7	91.7
Copulation index (male/female) (%) ^b	100/100	100/100	100/100	100/100
Fertility index (male/female) (%) ^c	95.8/95.8	95.8/95.8	87.0/87.5	87.5/87.5
No. of pregnant females	23	23	21	21
Pre-coital interval (days) ^d	2.6 ± 1.6	3.4 ± 4.1	3.3 ± 3.7	2.3 ± 1.3
No. of implantations ^d	14.3 ± 2.5	14.7 ± 3.4	14.0 ± 3.2	14.3 ± 2.8
Gestation index (%) ^e	100	100	95.2	100
Delivery index (%) ^f	91.4	94.8	88.1	92.6
Gestation length (days) ^d	22.5 ± 0.5	22.4 ± 0.6	22.4 ± 0.5	22.4 ± 0.5
No. of pups delivered ^d	13.2 ± 3.4	13.9 ± 3.3	13.4 ± 2.4	13.1 ± 2.4
No. of litters	23	23	20	21
Sex ratio of F2 pups ^g	0.523	0.492	0.517	0.486
No. of litters totally lost	1	1	0	8**
Viability index during lactation (%)^{h,i,j}				
Day 0	98.6	97.7	96.0	97.8
Day 4	86.9	87.3	92.1	68.4*
Day 21	85.0 (22) ^k	89.6 (22) ^k	71.3	49.7 (20) ^{k,**}
Male pup weight during lactation (g)^d				
Day 0	6.8 ± 0.8	6.7 ± 0.7 (22) ^k	7.1 ± 0.6	6.6 ± 0.6
Day 4	9.1 ± 2.3 (22) ^k	9.3 ± 1.3 (22) ^k	9.0 ± 1.8	8.0 ± 1.3 (19) ^k
Day 7	14.7 ± 3.9 (22) ^k	15.4 ± 2.8 (22) ^k	14.3 ± 3.6 (19) ^k	11.5 ± 2.9 (17) ^{k,*}
Day 14	31.4 ± 8.0 (22) ^k	33.8 ± 5.0 (22) ^k	31.0 ± 7.2 (18) ^k	24.2 ± 6.6 (14) ^{k,**}
Day 21	53.0 ± 12.6 (22) ^k	56.2 ± 6.7 (22) ^k	54.1 ± 10.1 (18) ^k	42.6 ± 8.3 (13) ^{k,**}
Female pup weight during lactation (g)^d				
Day 0	6.5 ± 0.8	6.3 ± 0.6	6.7 ± 0.6	6.2 ± 0.6

Table 1 (Continued)

HBCD (ppm)	0 (control)	150	1500	15,000
Day 4	8.9 ± 2.3 (22) ^k	8.5 ± 1.3 (22) ^k	8.8 ± 1.8	7.3 ± 1.3 (20) ^{k,**}
Day 7	14.3 ± 3.5 (21) ^k	14.2 ± 2.8 (22) ^k	13.5 ± 3.9	10.7 ± 2.6 (17) ^{k,**}
Day 14	31.2 ± 6.5 (21) ^k	31.3 ± 5.1 (22) ^k	29.3 ± 7.3	23.9 ± 5.9 (13) ^{k,**}
Day 21	52.0 ± 10.0 (21) ^k	52.8 ± 6.6 (22) ^k	51.2 ± 10.8	41.6 ± 8.4 (13) ^{k,**}

^a Incidence of females with normal estrous cycles (%) = (no. of females with normal estrous cycles/no. of females examined) × 100.

^b Copulation index (%) = (no. of animals with successful copulation/no. of animals paired) × 100.

^c Fertility index (%) = (no. of animals that impregnated a female or were pregnant/no. of animals with successful copulation) × 100.

^d Values are given as the mean ± S.D.

^e Gestation index (%) = (no. of females that delivered live pups/no. of pregnant females) × 100.

^f Delivery index (%) = (no. of pups delivered/no. of implantations) × 100.

^g Sex ratio = total no. of male pups/total no. of pups.

^h Viability index on postnatal day 0 (%) = (no. of live pups on postnatal day 0/no. of pups delivered) × 100.

ⁱ Viability index on postnatal day 4 (%) = (no. of live pups on postnatal day 4/no. of live pups on postnatal day 0) × 100.

^j Viability index on postnatal day 21 (%) = (no. of live pups on postnatal day 21/no. of live pups on postnatal day 4 after cull) × 100.

^k Data were obtained from the numbers of litters in parentheses because females that had no male and/or female pups and/or experienced total male and/or female pup loss during lactation were excluded.

* Significantly different from the control, $P < 0.05$.

** Significantly different from the control, $P < 0.01$.

to controls. One dam experienced total litter loss by day 5 of lactation at 15,000 ppm; however, there were no significant differences in the copulation index, fertility index, gestation index, pre-coital interval, number of implantations, delivery index, number of F1 pups delivered, or viability of F1 pups during lactation between the control and HBCD-treated groups. Mean body weight of female F1 pups on PND 0 was significantly higher at 1500 ppm, and that of male F1 pups on PND 21 was significantly lowered at 15,000 ppm, compared to controls.

Table 1 also shows the reproductive and developmental parameters for F1 parent/F2 offspring. In F1 females, there were extended diestrus vaginal smears in a few control and HBCD-treated rats, but no significant effect of HBCD was found on the incidence of females with normal estrous cycles. All pairs in all groups copulated. One female each in the control and 150 ppm groups, and three females each at 1500 and 15,000 ppm were not impregnated. One pregnant female did not deliver live pups at 1500 ppm. One dam experienced total litter loss by day 4 of lactation in the control group and by day 2 of lactation at 150 ppm. At 15,000 ppm, eight dams experienced total litter loss by days 4, 5, 7, 9, 11, 13 or 18 of lactation, and a significantly increased incidence of dams with total litter loss was noted. No clear clinical signs of toxicity were noted in these dams with total litter loss. No significant changes were observed in the copulation index, fertility index, gestation index, pre-coital interval, gestation length, number of implantations, delivery index, number of F2 pups delivered or the sex ratio of F2 pups. A significantly decreased viability index was noted in F2 pups on PNDs 4 and 21 at 15,000 ppm. Mean body weights were significantly lowered compared to controls in male F2 pups on PNDs 7, 14 and 21 and in female F2 pups on PNDs 4, 7, 14 and 21 at 15,000 ppm.

3.3. Developmental landmarks (F1 and F2)

Table 2 presents physical development of F1 and F2 pups. There was no significant difference in the incidence of male and

female F1 and F2 pups that displayed pinna unfolding, or incisor eruption between the control and HBCD-treated groups. The incidence of male and female F1 pups showing completion of eye opening was increased compared to controls at 1500 ppm. In F2 pups, the incidence of pups showing eye opening was lowered compared to controls in males at 15,000 ppm and in females at 1500 and 15,000 ppm. The AGD and AGD per cube root of body weight ratio were not significantly different between control and HBCD-treated groups in male and female F1 and F2 pups.

Table 3 shows reflex ontogeny in F1 and F2 pups. All male and female F1 pups in all groups completed the surface righting reflex, negative geotaxis reflex and mid-air righting reflex. No significant changes were observed in reflex response time, except for faster response in the surface righting in males at 15,000 ppm, in F1 pups of both sexes in HBCD-treated groups. In F2 pups, a few pups failed to complete the reflex response in HBCD-treated groups, and a significantly low incidence of females completed mid-air righting was noted at 15,000 ppm; however, there was no significant difference in the incidence of male and female pups with completed response in other reflexes and in the reflex response time between control and HBCD-treated groups.

Table 4 presents data on sexual development in F1 rats. No significant differences between control and HBCD-treated groups were noted in the age at preputial separation in males or vaginal opening in females, or body weight at the age of preputial separation or vaginal opening.

3.4. Behavioral effects (F1)

Spontaneous locomotor activity for 10 min intervals and for a total of 60 min was not significantly different between control and HBCD-treated groups in male and female F1 rats (data not shown).

On the first day of the T-maze test, the pre-test swimming trials in the straight channel revealed that all male and female F1 rats in each group could swim satisfactorily, and no sig-

Table 2
Physical development in F1 and F2 pups

HBCD (ppm)	0 (control)	150	1500	15,000
F1 pups				
No. of litters examined	24	21	20	18
Pinna unfolding (%) ^{a,b}				
Male	86.0 ± 26.5	92.5 ± 16.5	93.6 ± 15.7	81.3 ± 27.9
Female	85.8 ± 29.5 (23) ^c	94.7 ± 14.7	97.3 ± 7.5	86.4 ± 23.8
Incisor eruption (%) ^{a,b}				
Male	91.6 ± 17.6 (23) ^c	96.4 ± 12.0	92.1 ± 17.0	89.7 ± 19.9 (17) ^c
Female	94.9 ± 11.4 (23) ^c	95.2 ± 10.1	92.5 ± 20.0	92.2 ± 15.4 (17) ^c
Eye opening (%) ^{a,b}				
Male	48.2 ± 41.5 (23) ^c	56.7 ± 37.9	77.1 ± 36.3 [*]	45.8 ± 34.6 (17) ^c
Female	49.3 ± 37.8 (23) ^c	66.7 ± 41.3	82.9 ± 33.5 ^{**}	54.9 ± 41.4 (17) ^c
AGD^a				
Male pup AGD (mm)	5.37 ± 0.41	5.44 ± 0.36	5.38 ± 0.32	5.20 ± 0.51
Male pup AGD/(bw ^{1/3})	2.49 ± 0.11	2.48 ± 0.10	2.44 ± 0.12	2.46 ± 0.14
Female pup AGD (mm)	2.60 ± 0.23 (23) ^c	2.67 ± 0.16	2.62 ± 0.18	2.57 ± 0.23
Female pup AGD/(bw ^{1/3})	1.22 ± 0.09 (23) ^c	1.23 ± 0.06	1.20 ± 0.06	1.23 ± 0.06
F2 pups				
No. of litters examined	23	22	20	21
Pinna unfolding (%) ^{a,b}				
Male	79.9 ± 36.4 (22) ^c	90.5 ± 22.8	82.1 ± 29.8	70.1 ± 39.2 (20) ^c
Female	73.6 ± 39.6	90.6 ± 22.8	81.5 ± 31.1	66.8 ± 40.9
Incisor eruption (%) ^{a,b}				
Male	86.4 ± 25.3 (22) ^c	92.8 ± 19.6	97.2 ± 11.8 (18) ^c	86.3 ± 27.7 (14) ^c
Female	85.7 ± 26.9 (21) ^c	90.9 ± 26.2	97.5 ± 11.2	90.0 ± 28.0 (15) ^c
Eye opening (%) ^{a,b}				
Male	72.7 ± 40.0 (22) ^c	62.5 ± 40.6	47.2 ± 44.8 (18) ^c	33.9 ± 34.7 (14) ^{c,**}
Female	82.9 ± 26.8 (21) ^c	72.7 ± 37.7	53.8 ± 40.3 [*]	48.1 ± 42.0 (13) ^{c,*}
AGD^a				
Male pup AGD (mm)	5.12 ± 0.54 (22) ^c	5.12 ± 0.41	5.04 ± 0.42	4.84 ± 0.39 (19) ^c
Male pup AGD/(bw ^{1/3})	2.46 ± 0.12 (22) ^c	2.44 ± 0.13	2.43 ± 0.08	2.42 ± 0.12 (19) ^c
Female pup AGD (mm)	2.69 ± 0.30 (22) ^c	2.71 ± 0.24	2.71 ± 0.29	2.54 ± 0.21 (20) ^c
Female pup AGD/(bw ^{1/3})	1.30 ± 0.07 (22) ^c	1.33 ± 0.09	1.32 ± 0.09	1.32 ± 0.06 (20) ^c

^a Values are given as the mean ± S.D.

^b Incidence of animals that displayed pinna unfolding, incisor eruption or eye opening (%).

^c Data were obtained from the numbers of litters in parentheses because females that had no male and/or female pups and/or experienced total male and/or female pup loss during lactation were excluded.

^{*} Significantly different from the control, $P < 0.05$.

^{**} Significantly different from the control, $P < 0.01$.

nificant changes were observed in the elapsed time to traverse the straight channel. In males, there were a significantly shorter elapsed time at 1500 and 15,000 ppm and fewer number of errors at 15,000 ppm on day 3 of the T-maze. In females, there was no significant difference in the elapsed time or number of errors of the T-maze between control and HBCD-treated groups (data not shown).

3.5. Necropsy and histopathology (F0, F1 and F2)

No compound-related gross lesions or microscopic alterations were observed in reproductive organs in male and female F0 and F1 adults showing reproductive difficulties, in male and female F0 and F1 adults of the highest dose group and in dead animals before scheduled sacrifice. There were no compound-

related gross lesions or remarkable microscopic alterations in other tissues and organs, except for the thyroid, in male and female F0 and F1 adults.

Table 5 presents the histopathological findings in the thyroid of male and female F0 and F1 adults. Decreased size of follicles in the thyroid was found in F0 and F1 adults at 1500 ppm and higher, and in F1 females at 150 ppm as well. A significant increased incidence of rats with decreased follicle size was noted in F0 males (25%) and females (21%) and F1 females (21%) at 1500 ppm and F0 males (87%) and females (48%) and F1 males (46%) and females (54%) at 15,000 ppm, compared to controls (0%). Background incidence of decreased follicle size in the laboratory performed current study was 0% in a total of 56 males and 56 females in 6 studies (5–12/sex/study) from 1998 to 2004. Hypertrophy of the follicular cells in the thyroid was

Table 3
Reflex ontogeny in F1 and F2 pups

HBCD (ppm)	0 (control)	150	1500	15,000
F1 pups				
No. of pups examined (male/female)	24/23	21/21	20/20	17/17
Surface righting reflex completion rate (%)				
Male/female	100/100	100/100	100/100	100/100
Surface righting reflex response time (s) ^a				
Male	2.3 ± 1.1	2.0 ± 0.6	1.8 ± 0.5	1.6 ± 0.3**
Female	3.1 ± 1.8	2.4 ± 1.5	2.9 ± 2.6	2.6 ± 2.6
Negative geotaxis reflex completion rate (%)				
Male/female	100/100	100/100	100/100	100/100
Negative geotaxis reflex response time (s) ^a				
Male	17.7 ± 7.1	16.8 ± 8.0	15.2 ± 7.8	19.4 ± 5.9
Female	13.9 ± 6.2	11.5 ± 6.2	12.7 ± 6.3	17.0 ± 6.9
Mid-air righting reflex completion rate (%)				
Male/female	100 (23) ^b /100	100/100	100/100	100/100
F2 pups				
No. of pups examined (male/female)	22/22	22/22	19/20	19/18
Surface righting reflex completion rate (%)				
Male/female	100/100	100/100	100/100	100/88.9
Surface righting reflex response time (s) ^a				
Male	2.1 ± 1.7	2.0 ± 1.5	2.8 ± 2.5	2.2 ± 2.3
Female	2.3 ± 0.9	2.4 ± 1.7	2.1 ± 0.9	3.7 ± 3.7 (16) ^b
Negative geotaxis reflex completion rate (%)				
Male/female	100/100 (21) ^b	95.5/100	100/100	81.3 (16) ^b /88.2 (17) ^b
Negative geotaxis reflex response time (s) ^a				
Male	17.3 ± 8.6	14.7 ± 6.8 (21) ^b	15.2 ± 6.4	14.1 ± 6.7 (13) ^b
Female	12.4 ± 5.3 (21) ^b	12.0 ± 5.2	16.7 ± 6.4	14.6 ± 6.6 (15) ^b
Mid-air righting reflex completion rate (%)				
Male/female	100/100 (21) ^b	100/100	94.4 (18) ^b /90.0	100 (13) ^b /76.9 (13) ^{b,*}

Surface righting reflex on postnatal day 5 (three trials), negative geotaxis reflex on postnatal day 8 (one trial) and mid-air righting reflex on postnatal day 18 (three trials) were examined. Completion rate (%) = (no. of animals showing all positive responses of the trials/no. of animals examined) × 100.

^a Values are given as the mean ± S.D.

^b Data were obtained from the numbers of pups in parentheses.

* Significantly different from the control, $P < 0.05$.

** Significantly different from the control, $P < 0.01$.

also observed in F0 males at 1500 ppm and higher, and in F0 females at 1500 ppm.

Fig. 3 shows the number of the primordial follicles in the ovary of F1 females. The number of primordial follicles (mean ± S.D.) was significantly decreased at 1500

(197.9 ± 76.9) and 15,000 ppm (203.4 ± 79.5), but not at 150 ppm (294.2 ± 66.3), compared to controls (316.3 ± 119.5). The range of the background control data in the laboratory performed current study was 189.5–353.4 (mean = 295.6) in 4 studies using 10 females per study in 2005–2006.

Table 4
Sexual development in F1 males and females

HBCD (ppm)	0 (control)	150	1500	15,000
F1 rats				
Male preputial separation				
No. of males examined	24	24	24	24
Age (days) ^a	42.8 ± 1.7	41.7 ± 1.8	42.8 ± 2.2	43.7 ± 1.5
Body weight (g) ^a	225.6 ± 17.1	219.6 ± 20.0	235.0 ± 20.8	226.5 ± 16.2
Female vaginal opening				
No. of females examined	24	24	24	24
Age (days) ^a	30.9 ± 2.0	30.3 ± 2.6	30.1 ± 1.8	30.8 ± 2.2
Body weight (g) ^a	106.0 ± 13.8	102.9 ± 13.8	106.0 ± 10.6	100.7 ± 13.0

^a Values are given as the mean ± S.D.

Table 5
Histopathological findings in the thyroid of F0 and F1 rats

HBCD (ppm)	0 (control)	150	1500	15,000
F0 males				
No. of males examined	24	24	24	23 ^a
Decreased size of thyroid follicle ^b	0	0	6*	20 ^{**}
Hypertrophy of thyroid follicular cells ^b	0	0	3	1
F0 females				
No. of females examined	24	24	24	23 ^a
Decreased size of thyroid follicle ^b	0	0	5*	11 ^{**}
Hypertrophy of thyroid follicular cells ^b	0	0	2	0
F1 males				
No. of males examined	24	24	22 ^a	24
Decreased size of thyroid follicle ^b	0	0	2	11 ^{**}
Hypertrophy of thyroid follicular cells ^b	0	0	0	0
F1 females				
No. of females examined	24	24	24	24
Decreased size of thyroid follicle ^b	0	1	5*	13 ^{**}
Hypertrophy of thyroid follicular cells ^b	0	0	0	0

^a The number of animals examined was 23 or 22 due to autolysis.

^b Values are given as the number of animals that showed abnormal findings.

* Significantly different from the control, $P < 0.05$.

** Significantly different from the control, $P < 0.01$.

There were no compound-related gross lesions and histopathological changes in male and female F1 and F2 pups and weanlings including dead pups.

3.6. Organ weights (F0 adults)

The mean body weight at scheduled sacrifice was significantly heavier at 1500 ppm in males compared to controls. In F0 males, there were a significantly decreased relative weight of the brain at 1500 ppm and decreased relative weight of the seminal vesicle at 1500 ppm and higher. On the other hand, there were significantly increased absolute and relative weights of the liver at 1500 ppm and higher and of the thyroid at 15,000 ppm. In F0 females, significant increases were found in the absolute weight of the thyroid, liver and adrenal, and relative weight of the liver at 15,000 ppm when compared with controls (data not shown).

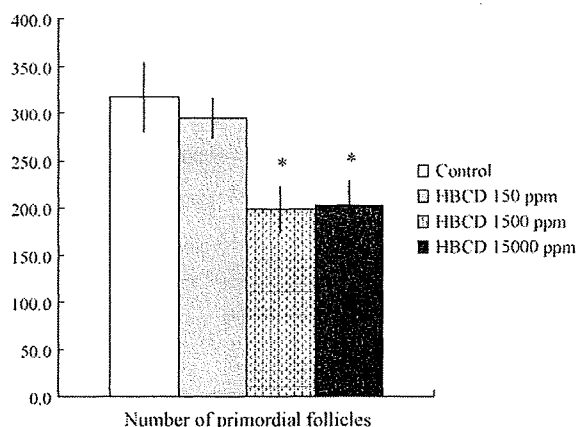


Fig. 3. Number of primordial follicles in the ovary of F1 female rats. Values are given as the mean \pm S.E.M. (*) Significantly different from the control, $P < 0.05$.

3.7. Organ weights (F1 weanlings and adults)

Table 6 presents the organ weights of male and female F1 weanlings. The mean body weight at scheduled sacrifice was significantly lowered in males at 15,000 ppm compared to controls. In males, there were significant increases in the absolute and relative weights of the testis at 150 ppm, and relative weights of the testis and absolute and relative weight of the liver at 1500 ppm and higher. The absolute weights of the brain and kidney were significantly decreased at 15,000 ppm. In F1 females, significantly increased absolute and relative weights of the liver at 1500 ppm and higher, and decreased absolute weights of the brain and kidney at 15,000 ppm were observed.

Table 7 shows the organ weights of male F1 adult at scheduled sacrifice. The relative weights of the brain and pituitary were significantly higher at 150 ppm compared to controls. At 15,000 ppm, absolute weight of the brain was significantly decreased, and absolute and relative weights of the thyroid and liver were significantly increased compared to control.

The organ weights of female F1 adults at scheduled sacrifice are shown in Table 8. At 15,000 ppm, there were a significant decrease in the absolute weight of the brain and a significant increase in absolute and relative weights of the thyroid and liver.

3.8. Organ weights (F2 weanlings)

Table 9 presents the organ weights of male F2 weanlings. The body weight at sacrifice was significantly reduced at 15,000 ppm compared to controls. A significant decrease was observed in the relative weight of the kidney at 150 ppm, and a significant increase was observed in the relative weight of the liver at 1500

Table 6
Organ weights of male and female F1 weanlings

HBBCD (ppm)	0 (control)	150	1500	15,000
No. of male F1 weanlings examined	23	21	20	17
Body weight (g) ^a	85.7 ± 10.9	89.6 ± 8.1	87.7 ± 9.2	78.3 ± 5.8*
Brain (g) ^a	1.64 ± 0.09 ^b 1.94 ± 0.19 ^c	1.66 ± 0.05 1.87 ± 0.17	1.62 ± 0.07 1.86 ± 0.18	1.55 ± 0.06** 1.99 ± 0.13
Thymus (mg) ^a	342 ± 68 ^b 398 ± 55 ^c	339 ± 50 379 ± 45	369 ± 59 421 ± 55	317 ± 57 405 ± 70
Liver (g) ^a	3.94 ± 0.63 ^b 4.60 ± 0.37 ^c	4.12 ± 0.48 4.60 ± 0.32	4.43 ± 0.59* 5.05 ± 0.32**	4.71 ± 0.58** 6.00 ± 0.44**
Kidney (mg) ^{a,d}	996 ± 125 ^b 1165 ± 74 ^c	1035 ± 131 1155 ± 92	1004 ± 109 1146 ± 70	894 ± 99* 1140 ± 78
Spleen (mg) ^a	336 ± 62 ^b 394 ± 64 ^c	327 ± 41 366 ± 42	334 ± 43 383 ± 46	309 ± 69 395 ± 81
Adrenal (mg) ^{a,d}	23.9 ± 3.0 ^b 28.0 ± 2.6 ^c	25.0 ± 3.3 28.0 ± 3.9	26.1 ± 3.7 29.9 ± 4.3	22.8 ± 3.6 29.2 ± 4.8
Testis (mg) ^{a,d}	488 ± 100 ^b 565 ± 65 ^c	550 ± 70* 614 ± 56*	541 ± 92 615 ± 61*	494 ± 70 631 ± 73**
Epididymis (mg) ^{a,d}	73.2 ± 9.5 ^b 85.9 ± 9.8 ^c	77.4 ± 9.8 86.7 ± 10.3	78.3 ± 9.9 89.3 ± 7.5	70.1 ± 11.6 89.9 ± 15.3
Ventral prostate (mg) ^a	40.0 ± 12.0 ^b 46.4 ± 10.3 ^c	42.0 ± 7.7 47.1 ± 8.8	42.1 ± 7.1 48.2 ± 7.3	34.8 ± 9.4 44.5 ± 11.1
No. of female F1 weanlings examined	23	21	20	14
Body weight (g) ^a	78.9 ± 10.6	83.2 ± 9.7	83.9 ± 8.3	72.1 ± 5.3
Brain (g) ^a	1.58 ± 0.09 ^b 2.04 ± 0.23 ^c	1.61 ± 0.07 1.96 ± 0.19	1.59 ± 0.08 1.91 ± 0.14	1.51 ± 0.06* 2.10 ± 0.16
Thymus (mg) ^a	335 ± 64 ^b 423 ± 58 ^c	330 ± 58 397 ± 63	370 ± 58 441 ± 53	305 ± 31 422 ± 33
Liver (g) ^a	3.61 ± 0.55 ^b 4.57 ± 0.35 ^c	3.83 ± 0.55 4.59 ± 0.28	4.22 ± 0.56** 5.02 ± 0.32**	4.37 ± 0.41** 6.07 ± 0.36**
Kidney (mg) ^{a,d}	932 ± 102 ^b 1189 ± 85 ^c	945 ± 112 1136 ± 63	958 ± 115 1143 ± 81	815 ± 85** 1129 ± 72
Spleen (mg) ^a	311 ± 53 ^b 399 ± 75 ^c	306 ± 44 370 ± 51	304 ± 59 363 ± 67	280 ± 40 388 ± 48
Adrenal (mg) ^{a,d}	21.9 ± 3.5 ^b 27.8 ± 3.8 ^c	23.7 ± 2.8 28.7 ± 4.0	24.2 ± 3.8 28.9 ± 4.0	20.9 ± 3.4 28.9 ± 4.1
Ovary (mg) ^{a,d}	20.8 ± 3.7 ^b 26.5 ± 4.5 ^c	22.8 ± 3.6 27.5 ± 4.1	21.0 ± 4.0 25.0 ± 3.8	20.9 ± 3.4 28.9 ± 3.7
Uterus (mg) ^a	57.0 ± 10.9 ^b 73.6 ± 17.5 ^c	62.0 ± 14.1 74.9 ± 17.7	64.1 ± 18.6 76.0 ± 18.4	51.9 ± 12.4 71.9 ± 16.2

^a Values are given as the mean ± S.D.

^b Absolute organ weight.

^c Relative organ weight = organ weight (g or mg)/100 g body weight.

^d Values are given as the total weights of the organs on both sides.

* Significantly different from the control, $P < 0.05$.

** Significantly different from the control, $P < 0.01$.

and 15,000 ppm. There were significantly decreased absolute weight of the brain, kidney, spleen, adrenal, epididymis and ventral prostate and increased relative weight of the brain at 15,000 ppm.

Table 10 also presents the organ weights of female F2 weanlings. At 15,000 ppm, a significant decrease compared to

controls was found in the body weight at sacrifice. The absolute and relative weights of the ovary were significantly higher at 150 ppm. At 15,000 ppm, there were significantly reduced absolute weight of the brain, thymus, kidney, spleen, adrenal and uterus and increased relative weight of the brain, liver and ovary.

Table 7
Organ weights of male F1 adults

HBCD (ppm)	0 (control)	150	1500	15,000
No. of male F1 adults examined	24	24	22	24
Body weight (g) ^a	605.6 ± 41.9	576.7 ± 59.0	613.3 ± 59.2	584.4 ± 54.9
Brain (g) ^a	2.19 ± 0.08 ^b 0.363 ± 0.028 ^c	2.22 ± 0.08 0.388 ± 0.036 ^c	2.18 ± 0.09 0.358 ± 0.034	2.11 ± 0.07 ^{**} 0.363 ± 0.032
Pituitary gland (mg) ^a	13.1 ± 1.5 ^b 2.16 ± 0.22 ^c	13.6 ± 1.6 2.37 ± 0.23 ^{**}	13.2 ± 1.4 2.17 ± 0.22	13.3 ± 1.2 2.28 ± 0.23
Thyroid (mg) ^{a,d}	24.3 ± 4.9 ^b 4.03 ± 0.79 ^c	24.2 ± 3.0 4.22 ± 0.63	25.4 ± 4.7 4.15 ± 0.72	29.0 ± 5.6 ^{**} 4.96 ± 0.87 ^{**}
Thymus (mg) ^a	344 ± 72 ^b 56.7 ± 10.8 ^c	305 ± 92 52.8 ± 14.3	368 ± 100 59.8 ± 14.4	341 ± 76 58.3 ± 11.1
Liver (g) ^a	19.83 ± 2.06 ^b 3.27 ± 0.18 ^c	19.36 ± 3.13 3.34 ± 0.26	20.73 ± 3.01 3.37 ± 0.25	22.61 ± 3.04 ^{**} 3.86 ± 0.28 ^{**}
Kidney (g) ^{a,d}	3.74 ± 0.34 ^b 0.618 ± 0.037 ^c	3.59 ± 0.36 0.625 ± 0.052	3.77 ± 0.33 0.619 ± 0.074	3.77 ± 0.58 0.645 ± 0.080
Spleen (mg) ^a	885 ± 168 ^b 146 ± 26 ^c	840 ± 147 146 ± 22	878 ± 163 143 ± 22	851 ± 113 146 ± 17
Adrenal (mg) ^{a,d}	59.7 ± 11.0 ^b 9.9 ± 1.6 ^c	63.1 ± 15.8 10.9 ± 2.3	60.3 ± 10.7 9.9 ± 1.8	59.4 ± 6.7 10.2 ± 1.1
Testis (g) ^{a,d}	3.63 ± 0.33 ^b 0.602 ± 0.069 ^c	3.52 ± 0.27 0.614 ± 0.049	3.51 ± 0.35 0.576 ± 0.062	3.45 ± 0.36 0.593 ± 0.065
Epididymis (mg) ^{a,d}	1346 ± 107 ^b 223 ± 24 ^c	1328 ± 104 232 ± 24	1282 ± 109 210 ± 19	1357 ± 104 234 ± 23
Seminal vesicle (g) ^a	2.36 ± 0.26 ^b 0.391 ± 0.051 ^c	2.28 ± 0.22 0.398 ± 0.050	2.33 ± 0.29 0.382 ± 0.051	2.38 ± 0.22 0.409 ± 0.045
Ventral prostate (mg) ^a	834 ± 195 ^b 137 ± 28 ^c	779 ± 217 135 ± 34	803 ± 175 131 ± 30	789 ± 159 135 ± 22

^a Values are given as the mean ± S.D.

^b Absolute organ weight.

^c Relative organ weight = organ weight (g or mg)/100 g body weight.

^d Values are given as the total weights of the organs on both sides.

* Significantly different from the control, $P < 0.05$.

** Significantly different from the control, $P < 0.01$.

3.9. Hematological and blood biochemical parameters (F0 and F1 adults)

In male F0 and F1 and female F1 adults, no significant difference was noted in the total WBC or differential leukocyte count between control and HBCD-treated groups. In female F0 adults, there was a significantly lower percent of stabform and segmented neutrophils, and a higher percent of lymphocytes at 150 ppm compared to controls. Total protein and globulin were significantly higher in F0 males at 1500 and 15,000 ppm, in F0 females at 150 and 15,000 ppm and in F1 males at 15,000 ppm than those in controls (data not shown).

3.10. Serum hormone levels (F0 and F1 adults)

Fig. 4 shows serum hormone levels of T3, T4 and TSH in male and female F0 and F1 adult rats. There were no significant changes in T3 levels in F0 and F1 rats of both sexes. Lower levels of T4 compared to controls were observed at 15,000 ppm in F0 males and females. Signifi-

cantly increased levels of TSH were found in F0 females at 150 ppm and higher, and F1 females at 1500 ppm and higher.

In F0 adults, serum FSH levels were significantly decreased in males at 1500 ppm and increased in females at 15,000 ppm compared to controls. In F1 adults, significantly higher levels of DHT were observed in males at 1500 ppm. No significant differences in serum testosterone, estradiol, progesterone and LH levels were noted in F0 and F1 adults of both sexes between control and HBCD-treated groups (data not shown).

3.11. Sperm parameters (F0 and F1 adults)

A significantly lower number of epididymal sperm at 150 ppm and higher mean amplitude of lateral head displacement at 15,000 ppm was found in F0 males compared to controls. There were no significant changes in the sperm counts, the percentage of motile sperm and progressively motile sperm, swimming speed and pattern, and the percentage of morphologically abnormal sperm in F1 adults between control and HBCD-treated groups (data not shown).

Table 8
Organ weights of female F1 adults

HBCD (ppm)	0 (control)	150	1500	15,000
No. of female F1 adults examined	22	22	20	13
Body weight (g) ^a	322.9 ± 25.9	327.0 ± 24.8	328.6 ± 20.2	307.8 ± 30.5
Brain (g) ^a	2.07 ± 0.09 ^b 0.645 ± 0.045 ^c	2.06 ± 0.07 0.634 ± 0.053	2.06 ± 0.08 0.630 ± 0.045	1.97 ± 0.06 ^{**} 0.646 ± 0.056
Pituitary gland (mg) ^a	14.7 ± 1.5 ^b 4.56 ± 0.43 ^c	15.8 ± 2.7 4.83 ± 0.81	15.5 ± 1.8 4.72 ± 0.59	14.3 ± 3.0 4.62 ± 0.68
Thyroid (mg) ^{a,d}	19.3 ± 3.3 ^b 6.01 ± 1.01 ^c	19.8 ± 3.5 6.08 ± 1.05	21.5 ± 4.6 6.54 ± 1.36	23.9 ± 4.5 ^{**} 7.76 ± 1.36 ^{**}
Thymus (mg) ^a	250 ± 62 ^b 77.4 ± 17.4 ^c	233 ± 62 71.6 ± 19.9	276 ± 80 83.8 ± 21.8	259 ± 76 83.9 ± 22.2
Liver (g) ^a	13.49 ± 1.59 ^b 4.18 ± 0.42 ^c	14.30 ± 1.29 4.39 ± 0.44	14.35 ± 1.41 4.38 ± 0.47	15.58 ± 2.38 ^{**} 5.05 ± 0.50 ^{**}
Kidney (g) ^{a,d}	2.36 ± 0.23 ^b 0.732 ± 0.054 ^c	2.31 ± 0.19 0.710 ± 0.068	2.39 ± 0.18 0.729 ± 0.070	2.23 ± 0.26 0.726 ± 0.051
Spleen (mg) ^a	632 ± 124 ^b 195 ± 33 ^c	595 ± 68 183 ± 24	624 ± 93 190 ± 27	578 ± 70 188 ± 16
Adrenal (mg) ^{a,d}	70.8 ± 10.4 ^b 22.0 ± 3.1 ^c	73.9 ± 10.5 22.6 ± 3.1	74.8 ± 9.6 22.8 ± 2.8	71.7 ± 13.4 23.3 ± 3.5
Ovary (mg) ^{a,d}	102.4 ± 12.9 ^b 31.8 ± 4.2 ^c	106.4 ± 13.2 32.6 ± 3.9	108.6 ± 18.0 33.1 ± 5.3	104.9 ± 16.9 34.1 ± 4.2
Uterus (mg) ^a	966 ± 216 ^b 299 ± 64 ^c	913 ± 188 282 ± 65	955 ± 204 291 ± 64	949 ± 156 313 ± 69

^a Values are given as the mean ± S.D.

^b Absolute organ weight.

^c Relative organ weight = organ weight (g or mg)/100 g body weight.

^d Values are given as the total weights of the organs on both sides.

^{**} Significantly different from the control, $P < 0.01$.

4. Discussion

In the present study, unscheduled deaths and euthanasia due to moribund condition were noted in a few animals. The deaths, euthanasia and clinical signs observed in the present study were not thought to be attributable to the administration of HBCD, because these incidences were very low and inconsistent across generations and sexes and these occurrences are not uncommon in toxicological studies. Lowered body weight and body weight gain accompanied by decreased food consumption were observed at 15,000 ppm in F1 males and females. These findings suggest that a dietary level of 15,000 ppm is generally toxic to rats.

Although a few F0 and F1 adults showed reproductive difficulties, necropsy and the histopathology of the reproductive organs revealed no compound-related changes in these rats. No adverse effects on spermatogenic endpoints observed in the present study are consistent with the previous results of sperm analysis [19].

Lowered body weight of pre-weaning pups was found at 15,000 ppm. More pronounced effects were noted on viability and body weight in F2 pups at this dose. These findings indicate that the dose levels of 15,000 ppm used in this study were potent enough to have adverse effects on the survival and growth of pups. Lochry [31] noted strong correlations between develop-

mental landmark parameters and pup body weight data, which were consistently the more sensitive indicator of the developmental status of offspring. A higher completion rate of eye opening was noted in male and female F1 pups at 1500 ppm, but this rate was not dose-dependent and was not accompanied by changes in body weight. A lower completion rate of eye opening was found in female F2 pups at 1500 ppm and higher, and in male F2 pups at 15,000 ppm, and was associated with lowered body weight. This decreased rate in F2 pups seems to be due to lowered body weight. The lowered completion rate of mid-air righting reflex in female F2 at 15,000 ppm seemed to be due to decreased body weight, because reflex responses are also dependent on physical development [32]. These findings of pre-weaning developmental parameters suggest that high doses (>1500 ppm) of HBCD affect the growth of offspring and the resulting decreased body weight is associated with delays of pre-weaning developmental landmarks and reflex ontogeny.

In the present study, HBCD-related effects were not found on sex hormone-dependent events, such as estrous cyclicity, AGD [33], male preputial separation [34], female vaginal opening [35] or the weight of reproductive organs, or on sex hormone levels at scheduled necropsy. These findings suggest that HBCD has no effects on androgenic/estrogenic events or sexual differentiation.

Transient changes were noted in performance in the water-filled T-maze in F1 males at 1500 ppm and higher, but HBCD

Table 9
Organ weights of male F2 weanlings

HBCD (ppm)	0 (control)	150	1500	15,000
No. of male F2 weanlings examined	22	22	18	13
Body weight (g) ^a	82.2 ± 17.1	84.6 ± 8.7	81.3 ± 13.4	64.7 ± 11.2**
Brain (g) ^a	1.62 ± 0.13 ^b 2.08 ± 0.58 ^c	1.65 ± 0.08 1.96 ± 0.16	1.60 ± 0.10 2.01 ± 0.29	1.46 ± 0.09** 2.31 ± 0.33**
Thymus (mg) ^a	343 ± 92 ^b 414 ± 97 ^c	336 ± 57 397 ± 54	360 ± 88 441 ± 69	282 ± 71 434 ± 81
Liver (g) ^a	3.87 ± 0.90 ^b 4.72 ± 0.59 ^c	4.02 ± 0.55 4.74 ± 0.35	4.12 ± 0.83 5.04 ± 0.40*	3.88 ± 0.68 6.00 ± 0.25**
Kidney (mg) ^{a,d}	965 ± 167 ^b 1201 ± 173 ^c	958 ± 99 1134 ± 56**	933 ± 135 1155 ± 85	749 ± 100** 1170 ± 96
Spleen (mg) ^a	360 ± 83 ^b 443 ± 77 ^c	361 ± 54 429 ± 64	346 ± 78 426 ± 69	263 ± 50** 411 ± 66
Adrenal (mg) ^{a,d}	23.4 ± 5.1 ^b 28.7 ± 4.4 ^c	25.1 ± 3.6 29.7 ± 3.2	24.3 ± 5.2 29.9 ± 4.0	19.6 ± 3.2* 30.4 ± 2.0
Testis (mg) ^{a,d}	476 ± 138 ^b 574 ± 123 ^c	510 ± 81 600 ± 55	475 ± 136 572 ± 93	385 ± 92 589 ± 54
Epididymis (mg) ^{a,d}	73.7 ± 16.8 ^b 90.7 ± 14.1 ^c	73.6 ± 10.7 87.2 ± 10.6	71.8 ± 17.5 87.3 ± 9.6	61.7 ± 9.5* 96.2 ± 10.5
Ventral prostate (mg) ^a	40.6 ± 9.7 ^b 50.2 ± 9.3 ^c	42.3 ± 9.5 50.2 ± 10.7	41.7 ± 12.1 50.8 ± 9.6	29.5 ± 6.8** 47.3 ± 15.8

^a Values are given as the mean ± S.D.

^b Absolute organ weight.

^c Relative organ weight = organ weight (g or mg)/100 g body weight.

^d Values are given as the total weights of the organs on both sides.

* Significantly different from the control, $P < 0.05$.

** Significantly different from the control, $P < 0.01$.

did not cause any toxicological changes in spontaneous locomotor activity in F1 rats of both sexes. Previously, decreased locomotion at low and high doses and worse performance in the Morris water maze at high doses were reported in male mice given a single gavage dose with HBCD at 0.9 and 13.5 mg/kg bw on PND 10 [21]. The discrepancy in the behavior of offspring between the present and previous studies could be explained by the difference in the actual intake of HBCD in pups between the direct exposure of pups and maternal exposure, indirectly to pups via maternal milk, and by differences in the animal species used in these studies. Further studies are needed to clarify the transfer of HBCD to the nervous system in pre-weaning animals and species difference.

The changes in absolute and/or relative weight of the brain, pituitary, thymus, kidney, spleen, adrenal, testis, epididymis, seminal vesicle, ventral prostate, ovary and uterus observed in adults and/or weanlings of either sexes or generation are not thought to have toxicological significance, because these changes were not dose-dependent or were inconsistent across age, sex and generation. Increased absolute and/or relative weights of the liver were noted regardless of sex, age and generation in the present study. Previously, an increase in absolute and relative liver weight was reported in rat dams given dietary HBCD at 1.0% [23]. A dose-dependent weight increase of the liver was noted only in females given HBCD by gavage for 28 days [20]. Gavage dose of HBCD for 28 days caused increased absolute and relative weights of the liver, but

not test article-related histopathological lesions, in male rats at 1000 mg/kg bw/day and in female rats at 350 mg/kg bw/day and higher [18]. In a rat 90-day repeated dose toxicity study of HBCD by gavage, increased absolute and relative weights of the liver were detected at 100 mg/kg bw/day and higher in males and females [19]. The liver change in males was characterized as minimal hepatocellular vacuolation, and a slight increase in the severity of this change was found in females at 300 mg/kg bw/day and higher. In females, minimal and mild centrilobular hepatocellular hypertrophy were also observed at 1000 mg/kg bw/day; however, the author concluded that these increases in liver weight were an adaptive, rather than a toxic response, and are not uncommon in rats, and are most likely the results of microsomal induction because of the absence of test article-related histopathological and serum chemistry changes [18,19]. It is known that hepatic enzyme induction produces increased liver weight without accompanied histopathological changes in rats [36]. In the present study, neither histopathological change in the liver in any sex, generation or age, nor gender difference in the effects of HBCD on the liver were noted; however, the increased levels of total protein and globulin, in F0 males and females and F1 males, observed in the present study were considered to result from the increased liver weight. The induction of CYP2B1 mRNA, CYP2B1/2B2 protein and 7-pentoxoresorufin *O*-deethylase activity, suggesting phenobarbital-type induction, was caused in juvenile/young rats given HBCD in feed for 28 days [37]. These findings suggest

Table 10
Organ weights of female F2 weanlings

HBCD (ppm)	0 (control)	150	1500	15,000
No. of female F2 weanlings examined	21	22	20	13
Body weight (g) ^a	75.3 ± 12.5	75.8 ± 8.5	73.1 ± 12.8	57.9 ± 11.6**
Brain (g) ^a	1.57 ± 0.11 ^b 2.14 ± 0.37 ^c	1.58 ± 0.07 2.11 ± 0.20	1.55 ± 0.12 2.17 ± 0.35	1.41 ± 0.15** 2.48 ± 0.34**
Thymus (mg) ^a	338 ± 85 ^b 447 ± 81 ^c	324 ± 50 429 ± 57	331 ± 69 451 ± 51	260 ± 80** 445 ± 83
Liver (g) ^a	3.55 ± 0.64 ^b 4.70 ± 0.27 ^c	3.57 ± 0.48 4.70 ± 0.28	3.63 ± 0.74 4.94 ± 0.32	3.42 ± 0.77 5.89 ± 0.44**
Kidney (mg) ^{a,d}	916 ± 131 ^b 1226 ± 93 ^c	885 ± 98 1169 ± 65	868 ± 144 1194 ± 84	679 ± 138** 1177 ± 103
Spleen (mg) ^a	325 ± 59 ^b 436 ± 61 ^c	302 ± 42 399 ± 43	299 ± 62 412 ± 61	225 ± 45** 392 ± 53
Adrenal (mg) ^{a,d}	22.1 ± 4.2 ^b 29.5 ± 4.1 ^c	21.5 ± 2.6 28.4 ± 3.4	21.5 ± 4.3 29.4 ± 3.1	17.6 ± 3.1** 30.7 ± 2.6
Ovary (mg) ^{a,d}	20.0 ± 3.9 ^b 26.9 ± 5.1 ^c	22.9 ± 2.6 ^c 30.5 ± 3.9 [*]	20.9 ± 3.9 28.8 ± 4.2	18.2 ± 4.0 32.1 ± 7.5 [*]
Uterus (mg) ^a	60.8 ± 16.1 ^b 80.9 ± 16.3 ^c	63.6 ± 15.1 84.4 ± 21.0	57.0 ± 15.7 78.7 ± 21.7	47.6 ± 11.4 [*] 83.7 ± 20.3

^a Value are given as the mean ± S.D.

^b Absolute organ weight.

^c Relative organ weight = organ weight (g or mg)/100 g body weight.

^d Values are given as the total weights of the organs of both sides.

^{*} Significantly different from the control, $P < 0.05$.

^{**} Significantly different from the control, $P < 0.01$.

that the increased liver weight and blood biochemistry changes observed in the present study may be attributable to enzyme induction.

In the previous 90-day repeated dose toxicity study, HBCD caused increases in the absolute and relative weights of the thyroid/parathyroid in females and thyroid follicular cell hypertrophy in males and females at 300 mg/kg bw/day and higher, and depressed serum T4 levels in males at 100 mg/kg bw/day and higher and in females at 300 mg/kg bw/day and higher [19]. van der Ven et al. [20] described that the most striking effect of HBCD was on the thyroid hormone axis, including lowered T4 levels, increased immunostaining for TSH in the pituitary, increased weight/activation of the pituitary and thyroid, induction of hepatic T4-glucuronyl transferase, and decreased thyroid follicles size, and these effects were restricted to females. They also noted that higher sensitivity in females may be due to higher liver concentrations of HBCD than in males [20]. In the present study, reduced levels of serum T4 in males and females at 15,000 ppm and increased levels of serum TSH at 1500 ppm and higher in females were observed. It seems likely that the lowered T4 levels may be related to enhanced elimination of T4 due to the induction of hepatic drug metabolizing enzymes and that increased TSH levels may be due to feedback resulting from decreased T4 levels. The increased TSH levels in F0 females at 150 ppm were not considered to have toxicological meaning, because these changes were not accompanied by histopathological changes in the thyroid or decreased T4 levels, or were inconsistent across generations at this dose. Increased thyroid

weight at 15,000 ppm and decreased thyroid follicle size and hypertrophy of thyroid follicular cells at 1500 ppm and higher were also noted in male and female F0 and F1 generations. These present findings are essentially consistent with the previous findings [19,20].

Primordial follicles preserve oocytes during the reproductive life span and constitute a stockpile of nongrowing follicles in mammalian ovaries. The primordial follicle population represents a female's total reproductive potential, because primordial follicles do not proliferate or grow [38]. It is reported that busulfan destroyed primordial germ cells, rendering the individual deficient in primordial follicles [39,40]. A reduced primordial stockpile was observed in female offspring of SD rats given busulfan on day 13–15 of pregnancy [41]. In a continuous breeding study in which female Long-Evans hooded rat offspring, after maternal intraperitoneal injection of busulfan on day 14 of pregnancy, were bred with control males for eight breeding cycles, the number of pups delivered was reduced at 2.5 and 5.0 mg/kg bw and no pups were delivered at 10 mg/kg bw [42]. Gray et al. [43] mentioned that continuous breeding of females exposed to reproductive toxicants during critical developmental periods is more useful than a single breeding trial in the detection of subfertility. In the present study, histopathological examinations of the ovary of F1 females revealed a decreased number of primordial follicles at 1500 and 15,000 ppm. Variation exists in primordial follicle counts dependent upon the methodology used [44], but follicle counts provide a more sensitive indicator of potential toxicity than did measures of fertility [45]. Parker

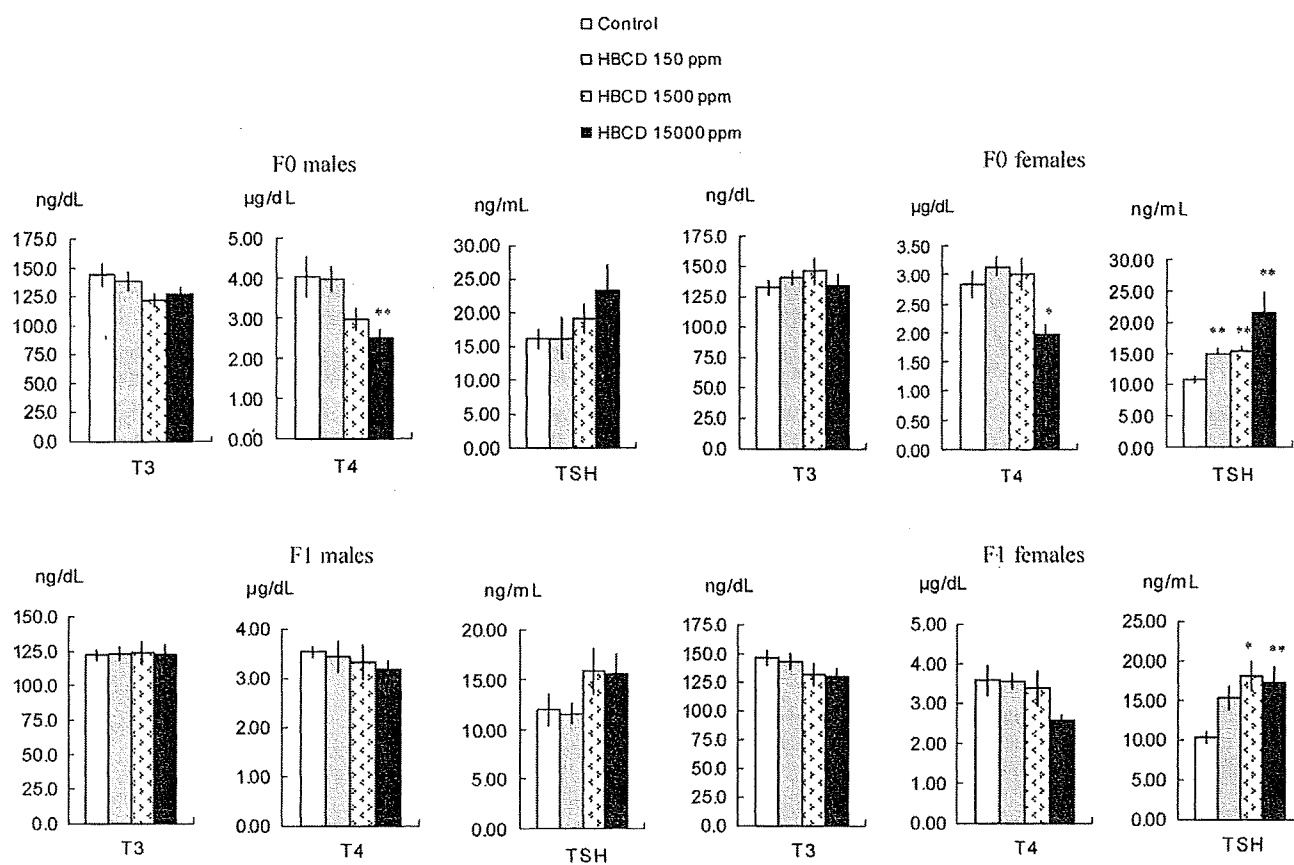


Fig. 4. Serum levels of T3, T4 and TSH in F0 and F1 rats. Values are given as the mean \pm S.E.M. (*) Significantly different from the control, $P < 0.05$. (**) Significantly different from the control, $P < 0.01$.

[46] noted that a decrease in primordial follicle count is usually considered a biomarker of an adverse reproductive effect because no recovery is possible. Although these findings suggest that HBCD is potentially reproductively toxic, no adverse effects on reproductive parameters in F1 dams, or on the numbers of implantations or F2 pups delivered were noted in the present study. In the present study, F1 parent rats were subjected to a single breeding trial. A continuous breeding study of HBCD may be needed to clarify the reproductive toxicity of HBCD, especially the adverse effects of HBCD on the reproductive life span.

In conclusion, the results of the two-generation reproductive toxicity study described here provide a more comprehensive toxicity profile of HBCD than has been previously reported, and the NOAEL of HBCD in this study was considered to be 150 ppm (10.2 mg/kg bw/day) in rats. NCR [4] estimated that the average oral dose rate was 0.026 mg/kg bw/day. The estimated human intake of HBCD is well below the NOAEL in the present study.

Acknowledgement

This study was supported by the Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan.

References

- Reistad T, Fonnum F, Mariussen E. Neurotoxicity of the pentabrominated diphenyl ether mixture, DE-71, and hexabromocyclododecane (HBCD) in rat cerebellar granule cells in vitro. *Arch Toxicol* 2006;80:785–96.
- BSEF (Bromine Science and Environmental Forum). Major brominated flame retardants volume estimates: total market demand by region. Brussels; 2003 [cited 2007, Aug 28]. Available from: www.bsef.com.
- American Chemical Council. HPV data summary and test plan for hexabromocyclododecane (HBCD); 2001.
- NRC (National Research Council). Hexabromocyclododecane, eds. Toxicological risks of selected flame-retardant chemicals. Washington, DC: National Academy Press; 2000. p. 53–71.
- Law RJ, Kohler M, Heeb NV, Gerecke AC, Schmid P, Voorspoels S, et al. Hexabromocyclododecane challenges scientists and regulators. *Environ Sci Technol* 2005;39:281A–7A.
- Sellstrom U, Kierkegaard A, de Wit C, Jansson B. Polybrominated diphenyl ethers and hexabromocyclododecane in sediment and fish from a Swedish river. *Environ Toxicol Chem* 1998;17:1065–72.
- Eljarrat E, de la Cal A, Raldua D, Duran C, Barcelo D. Occurrence and bioavailability of polybrominated diphenyl ethers and hexabromocyclododecane in sediment and fish from the Cinca River, a tributary of the Ebro River (Spain). *Environ Sci Technol* 2004;38:2603–8.
- Veith GD, De Feo DL, Bergstedt BV. Measuring and estimating the bioconcentration factor of chemicals in fish. *J Fish Res Board Can* 1979;36:1040–8.